

第 25 回 日本生殖内分泌学会 学術講演会

発表番号 18

Web 開催、2020.12.12-25

日本人における多嚢胞性卵巣症候群患者の特徴と不妊治療成績

井上朋子、森下みどり、貫井李沙、姫野隆雄、小宮慎之介、浅井淑子、森本義晴
HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）は排卵障害を特徴とする疾患であるが、肥満や代謝障害を伴うことの多い欧米型 PCOS と日本人患者の臨床像は異なる印象がある。当院を受診した PCOS 患者の臨床所見と不妊治療の成績を検討した。

【対象と方法】2015 年 1 月から 2019 年 12 月の間に挙児希望を主訴に当院で初診検査を受けた女性のうち、PCOS と診断された女性の血中総テストステロン（T）値、抗ミュラー管ホルモン（AMH）値、Body Mass Index（BMI）を集計した。また、不妊治療を受けた患者の妊娠率、生産率、流産率を PCOS の有無で比較した。診断は日本産科婦人科学会の診断基準 2007 を用い、統計解析は統計ソフト R バージョン 3.6.3 を使用した。

【結果】全患者 1557 人中 PCOS と診断されたのは 53 名であった。年齢は 32.1 ± 3.8 (24~40) 歳、血中 T 値は 0.39 ± 0.13 ng/mL、T が正常値を超えていたものは 15 名 (28%)、AMH= 11.03 ± 7.3 ng/mL、平均 BMI= 20.9 ± 3.4 であり、BMI>25 は 4 名 (8%) だった。不妊治療成績は、PCOS 群対非 PCOS 群で、妊娠率：71%対 56%、生産率：61%対 49%、流産率：14%対 13% であり、PCOS 群の不妊治療成績が不良ということはない。

【結論】日本人不妊患者の PCOS 合併率は 3%と比較的稀であり、高アンドロゲン血症を示すものや肥満者も少数であった。患者の不妊治療成績は良好であった。